

理事長挨拶



(一社)日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会理事長
長谷川幹

本学会は、2009年に任意団体で発足し、2015年10月に法人化を行い、「一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会」としました。

その目的は、「脳損傷の人々並びに周囲の人々が同じテーブルにつき、地域において主体的な暮らしの実現、及びどのように改善するかに関し、学術研究、知識、技術の向上を図りその成果を社会に広め、もってかかるすべての人々が双方向に学びあい、共に生きていく社会づくりの発展に寄与すること」としています。

本学会の「ケアリング」は、障害のある人々が周囲の人々から一方向で介護を受けることに限定するのではなく、お互いが影響しあいつつ双方向で支えあい、学びあう関係であることを意味しています。

そこで、コミュニティで暮らす脳損傷を含めた障害のある人、家族、市民、学者、医療職、保健職、福祉職、行政職など暮らしにかかわるすべての人々が参加する、年1回の全国大会、および、各種委員会（研究委員会、研修委員会、当事者社会参加推進委員会、文化・芸術・スポーツ委員会、広報委員会）の活動に会員の皆さまが積極的に参画されることを希望いたします。

そして、創刊号を発行するにあたり、会員の皆さまがこの紙面に忌憚のない意見、全国各地での実践活動の報告を多く寄せられることを期待いたします。

会報創刊に向けて

広報委員長 根本佳奈

広報誌創刊、おめでとうございます。

当事者としては、このように「行ったことを振り返ることができるもの」が資料として残っていくということは、非常に有り難い事だと感じます。

また、「脳損傷者」が一堂に集まるこのような大会では、似たような悩みごとや苦勞をされている方が大変多いと感じます。

そのような方々に「私も同じようなことを経験した！」や「どうやって乗り越えたの？」といったことを共有する経験が出来たのではないかと思います。

そのような「気付きの掛け橋」にこの広報誌がなってくれたらいいなと感じます。

この広報誌が、障害を抱えている方々やご家族の一助となって行くことを切に願っております。

第6回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会東京大会を終えて



2016年6月11・12日と東京大会は約500名の方に参加いただき盛況のうちに終わることができました。本大会は、法人化後の全国大会として理事長長谷川幹が大会長となり、東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂にて開催いたしました。大会実行委員35名のうち障害ある人が約10名参加し、月1回の定例委員会に30名前後、延べ380名が出席し、大会テーマ、プログラムを委員全員が主体的に企画しました。

大会後のアンケートより皆様から頂きましたご意見を下記に掲載いたします。(抜粋) 中島鈴美

アンケートより一部紹介

- 気持ちの整理について、3~5年はかかるというお話が聞いて本当によかったです。今、2年目ですが、まだできなくなってしまったこと、うまくいかなかったことばかりに目が向いてしまったり、職場の上司や周囲の顔色を気にしてばかりいるので、もう少し頑張っていこうと思いました。
- 受傷半年後でも、受傷したところは死滅して治らないけれど、訓練次第でほかの使っていなかった回路を伸ばしていけば、受傷前とは異なる形でも近づけることはできると確信できた。
- 私も当事者だが、毎日、試行錯誤していけば1歩ずつ進んでいけると思っていたので、ほかの人も同じように感じていたのだなと感じ嬉しくなった、自分は間違っていなかったと自信になった。
- 行政として情報の周知について改めて考えていく必要性を痛感した。関係機関、ご本人、ご家族の意見を聞きながら進めていきたい
- 失語症について、どの地域も団体も周りの方の理解がまだまだとのことでこれからも継続的に地域を含めた失語症の理解講座など必要だと思った。
- 医療を整え、生活を整え、スポーツや趣味活動はその次の次くらいでした。「人として豊かに楽しく生きる」ことは障害のあるなしにかかわらず大切な要素と思います。
- 1歩踏み出そうと思う



2017

第7回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会

北海道帯広大会

2017年の全国大会は初夏の北海道・帯広市で開催します。

6月10日(土)・6月11日(日)

会場：とかちプラザ レインボーホール(JR帯広駅前)

大会長：菅谷 智鶴 (脳外傷友の会コロポックル道東)



お問い合わせは北海道帯広大会事務局まで
 「脳外傷友の会コロポックル道東」内
 〒080-0010 帯広市大通南12丁目1番地サンバリエル3F
 TEL 090-3770-6726 担当窓口:菅谷(スガノヤ)

主催：一般社団法人日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
 学会事務局
 〒154-0002 東京都世田谷区下馬2-20-11 小園ビル303
 TEL&FAX 03-5432-9338

* 次回全国大会「北海道帯広大会」からお知らせ *

第7回全国大会は、29年6月初夏の北海道帯広市にて開催いたします。帯広は札幌から東に約200kmの人口約17万の都市で、羽田から一日7往復の航空便があり関東からのアクセスも大変良いところです。

現在実行委員は30名で、当事者や家族の会、僧侶やセラピスト、看護師、福祉車両関係、教育、保健所、市、観光コンベンション協会など多方面からユニークなメンバーが集まっております。

内容ですが、身近なご近所さんレベルで「私の障害」を知って欲しいという声が上がリ、一般市民の方々に広くご参加いただき、一緒に考えていけるような内容にしていきたいと検討中です。

ゆっくりであっても、しっかり一人一人に理解が根付いていく、

そんなことを目指して企画しております。ご参加お待ちしております！ (大会長：菅谷智鶴)

大会直前研修会 日時：2017年5月14日(日) 13:00~17:00

会場：十勝リハビリテーションセンター

講演：関 啓子氏 (当事者、三鷹高次脳機能障害研究所所長、神戸大学客員教授)・事例検討

連絡先：北海道帯広大会事務局「脳外傷友の会コロポックル道東」 スガノヤまで

* 地域の活動紹介 * 今回は東京目黒・品川・太田区家族会の活動です。

一第7回三区(目黒・品川・大田)合同高次脳機能障害勉強会一

10月16日(日)目黒区総合庁舎に於いて、近隣三区合同勉強会「高次脳機能障害と心の唄」を開催しました。この勉強会は昭和大学病院の医師の呼びかけから始まり、毎年近隣の三区の家族会が協力して開いています。

高次脳機能障害は国の支援普及事業開始から10年目を迎え、テレビでも少しは耳にするようになってきましたが、やはり一般の方の認知度は低く、地域でまだ埋もれている方も多いと感じます。そこで今回は「いつ誰がなってもおかしくない高次脳機能障害を知っていますか?」と呼びかけるキャッチフレーズのチラシ5000枚を配り、一般市民の方の参加を呼びかけました。内容も1部の司会とパネリストが当事者という「パネルディスカッション」、2部の「心の唄バンド」のミニコンサートを組み合わせ、当事者と家族にしかできないようなライブ感あふれるイベントにしようと三区の皆で準備を重ねました。

当日は160名を超える集客となり、参加した皆が元気になって前を向いて歩こうという気持ちになるような勉強会になりました。アンケートの回答では、当事者によるディスカッションは分かりやすく、心に響いたというものがほとんどでした。「心の唄コンサート」との組み合わせで、充実した時間が過ごせたという意見も多かったです。

何よりも、当事者が主動し、家族や支援者が後方に回れたことが今回の勉強会が意味深いものになったのだなと感じました。(目黒区家族会/演出昌子)



** 広報委員紹介 ** 今後、各地から広報委員を募集します

根本佳奈：19歳の時、突然の痙攣重積発作で低酸素脳による高次脳機能障害になりました。

現在は支援センターで就労訓練中です。

菊地春夫：H17年に脳梗塞発症。元NHKカメラマン。現在も三茶映像工房でカメラマンとして活躍し、編集のサポートもしています。

井堂愛：2014年から都内中心に展開している保険外リハビリ施設（脳梗塞リハビリセンター）の広報業務とコーディネートを担当。全国から電話・インターネットを通じて脳卒中経験者から相談や問合せを受ける中で退院後の暮らしやリハビリについての情報整理や本学会の重要性を日々感じています。

濱出昌子：（目黒区高次脳機能障害者家族会代表・目黒区身体障害者相談員）

2003年長女が多発性硬化症から高次脳機能障害者となりました。医療機関でも指摘されなかった全く聞いたことのない高次脳機能障害と分かるまで5年要した経験から、社会に認知されていないこの障害の啓発と仲間との情報交換の場として家族会活動をしています。

中島鈴美：（三軒茶屋リハビリテーションクリニック・理学療法士）

病院勤務を経て、地域開業クリニックで訪問リハビリを中心に、地域包括と協働した活動を行っています。共に学びあう学会の活動を皆さんに公開していきたいと思います。

山田幸恵：（理学療法士）

特別養護老人ホームで勤務しながら、個人で「リハビリ・サロンとまり木」を開催しています。当事者の身近で理学療法を共有出来る様、活動しています。

書籍紹介

今後も書籍や研修会を紹介していきます。

- ・ **高次脳機能障害を生きる（阿部順子・東川悦子編）** ミネルヴァ書房 2000円
主に交通事故で高次脳機能障害を抱えることになった11事例の本人・家族・支援者の3者が、受傷後から現在までの歩みを振り返ります。目に見えない障害による頭痛や不安定な感情…。私達にとっては共感出来る事が多くあるでしょう。
- ・ **身近な人が脳卒中で倒れた後の全生活術 誰も教えてくれなかった90のポイント**
（待島克史 [著] ・落合卓 [監修]） 時事通信出版局 1600円
脳卒中になった本人・家族が直面するであろう疑問や困りごとについて（例えば、病院の選び方から健康保険や介護保険等の制度、各種申請手続きの注意点やわかりにくいポイントなど）体系だててまとめられています。医療・介護従事者も支援の手引きとして。

編集後記

今年4月1日に”障害者差別解消法“が施行されました。先日の障害者週間(12/3~12/9)に「広報しんじゅく」にも改めてこの法律のことが取り上げられています。ところで、相模原市の入所者ら46人が殺傷された事件の討論会が開かれたという新聞記事がありました。“障害者差別解消法”は実際に役立っているのか？と親御さんは疑問をなげかけています。また、知的障害者のAさんは、今でも後ろから誰かが追いかけてくるような怖さを感じるとおっしゃっています。まだまだ”障害者差別解消法”は浸透していないようです。障害のある方もない方も今まで以上にともに支えあい、安心して暮らせる街になることを切に望みます。(菊地春夫)

** 我町の地域活動、研修会など情報やご意見をお寄せください **
学会会員募集中!!! 連絡先：office@caring-jp.com